

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25760004

研究課題名(和文) イスラーム金融を利用した伝統的経済制度の再活性化とその現代的意義をめぐる研究

研究課題名(英文) Revitalization of the Traditional Islamic Economic Institutions (Waqf and Zakat) in the Twenty-First Century

研究代表者

長岡 慎介 (NAGAOKA, Shinsuke)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：20611198

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現在勃興しつつあるイスラーム金融のスキームを利用した伝統的イスラーム経済制度(ザカート、ワクフ)の再活性化の取り組みに注目したものである。その実態解明を通じて、様々なイスラーム経済セクター(金融、ザカート、ワクフ)が、現代に再び「システム」としての有機的つながりを取り戻していることが明らかとなった。そして、その構造は、国家の境界を越えた脱領域的なシステムとして立ち現れていることが判明した。また、このシステムは、貧困や経済格差といったグローバル資本主義の弊害を是正する大きな役割を果たしていることも明らかとなり、1つのオルタナティブな経済システムとして機能しうることを示唆するものである。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on a new trend in Islamic finance which pertains to the revitalization of the traditional Islamic economic institutions (waqf and zakat) through utilizing the scheme of Islamic finance. The new trend is conducive to the organic integration of the Islamic economic system in the modern world. We observe that the nature of the emerging system shares commonality with that of the economic system in the premodern Islamic world, in terms of high integration with economy and society. However, this research highlights that the emerging system came into existence based on the modern cyber technology. This enabled the system to exist not at the real geographical level but at a metageographical level. Therefore, it can be concluded that the system is not just a resuscitation of the antique economic system in the pre-modern Islamic world, but is also a novel system that succeeds the golden heritage of the pre-modern era.

研究分野：イスラーム経済論

キーワード：現代イスラーム経済論 イスラーム金融 イスラーム法 伝統制度の再活性化 ザカート ワクフ

## 1. 研究開始当初の背景

イスラームの理念にもとづいた諸制度を現代世界に再興させようとするイスラーム復興の動きは、1970年代から政治・経済・社会のあらゆる側面において顕在化し、その動向は、今日、イスラーム世界だけでなくグローバルな影響力を持つに至っている。経済面では、「利子の取得の禁止」「投機的取引の禁止」といったイスラームの経済理念を掲げるイスラーム金融と呼ばれる商業ベースでの実践が登場した。イスラーム金融は、イスラーム世界だけでなく欧米を含む世界各地に拡大し、現在、経済面でのイスラーム復興を代表する存在になっている。

イスラーム金融の実践の現場では、そのマーケットシェアを拡大するべく、新たな金融商品の開発が続けられている。そのような現状に対して、「従来型の金融機関との競争力を重視するあまり、イスラーム金融が本来依って立つはずのイスラームの経済理念の遵守が形骸化しているのではないか」という批判が2000年代半ばから盛んになされるようになってきている。このような批判的論者は、望ましいイスラーム金融のあり方を活発に議論している。彼らは、イスラーム金融の社会的役割を重視することが、従来型の金融との差別化とイスラームの経済理念の発現につながるという議論を展開し、それに呼応した様々な実践が登場してきている。その先駆的实践例として、貧困削減のためのイスラーム型マイクロファイナンス事業、イスラームの経済理念に合致する事業への優先的投資を行うイスラーム型社会的責任投資が挙げられ、理念重視のイスラーム金融のあり方としての地位を確立しつつある。

これらに加えて、2010年代に入ると、ザカートやワクフといった近代以前のイスラーム世界の社会生活を支えてきた伝統的イスラーム経済制度を、現在のイスラーム金融のスキームを利用して再活性化させようとする次のような動向が登場し始めてきている(中東および東南アジア地域において申請者がこれまでに行ってきたイスラーム金融に関するフィールドワークの過程で判明した)。

ザカートとは、イスラーム教徒の最重要義務行為の1つであり、毎年の財産保有状況に応じて徴収が行われ、貧者などに分配が行われる制度である。近年、このザカートの徴収や分配をイスラーム銀行が担ったり、イスラーム金融方式でザカート資金が運用されたりする事例が見られるようになってきている。

他方、ワクフとは、イスラーム独自の財産寄進制度であり、財産の所有権を放棄することで、そこから生じる利益を将来にわたって慈善目的に提供することを可能にした制度である。近代以前は、多くの社会的インフラ(学校、病院、モスク)の運営にワクフが活用されており、社会生活に不可欠なものとし

て定着していた。しかし、近代以降、制度の形骸化やワクフ物件の老朽化が進んでいる。近年、そのようなワクフ物件をイスラーム銀行からの資金提供によって再開発し、収益性を高める取り組みが行われ始めている。

しかし、これらの取り組みの具体的な運営メカニズムや、イスラーム金融のスキームを利用した場合の優位性、新しいメカニズムを可能にしたイスラーム法の現代的革新のロジックといった実態についての実証的検討については、実践が始まって間もないこともあり、国際的にも着手されていない。また、このような新しい動向が、経済面でのイスラーム復興の文脈でどのように位置づけられるのか、現代の資本主義システムにどのようなインパクトをもたらさうのかといった理論的検討も未着手である。

ザカートはイスラーム教徒であれば誰もが納めるものであり、ワクフはその対象物件がイスラーム世界の至る所に遺されていることを考えれば、イスラーム金融のスキームを利用した再活性化がイスラーム社会へ与える潜在的インパクトは甚大である。また、これらの伝統的経済制度の再活性化は、イスラーム金融が旗振り役を担ってきた経済面でのイスラーム復興の新境地を開くものであり、その動態を分析することは、今後のイスラーム復興の動向を考える上でもきわめて重要であるといえる。

## 2. 研究の目的

以上の研究の学術的背景を踏まえて、本研究では、現在まさに勃興しつつあるイスラーム金融のスキームを利用した伝統的イスラーム経済制度(ザカート、ワクフ)の再活性化の取り組みに注目し、先進的取り組みが始まっている国々を対象としたフィールドワーク(資料調査・聞き取り調査)を通して、その実態を解明することをめざす。その際に、多くのイスラーム経済・金融研究で対比的に論じられることの多い2つの地域(中東湾岸地域と東南アジア)での調査を同時並行的に着手することで、地域間比較を常に念頭に置くことにする。具体的な調査対象国として、中東湾岸地域はアラブ首長国連邦を、東南アジアはマレーシア、シンガポール、インドネシアの3カ国を取り上げる。

現地でのフィールドワークでは、再活性化の担い手である運営団体や提携先のイスラーム金融機関を訪問し、ザカート、ワクフのそれぞれについて、(i)運営メカニズム、(ii)スキームの優位性、(iii)新しいメカニズムを可能にしたイスラーム法の現代的革新のロジックを重点的に調査する(具体的な調査項目は下表のとおり)。また、ザカート資金のイスラーム金融を通じたワクフ再開発への活用といった両制度の有機的つながりについても実態調査を行う。

本研究では、以上の実態解明を踏まえて、イスラーム金融を利用した伝統的イスラーム

ム経済制度の再活性化が、どのような意義とインパクトを持ちうるのかについての理論的考察を行う。特に、経済面でのイスラーム復興の動向における意義、課題が山積する現代の資本主義システムに対する示唆について考えることで、グローバル化時代の新しいイスラーム経済の構造的特徴の一端を解明することをめざす。

### 3. 研究の方法

イスラーム金融のスキームを利用した伝統的イスラーム経済制度（ザカート、ワクフ）の再活性化の取り組みの実態を解明するために、本研究では3年間にわたって現地でのフィールドワークを実施する。地域間比較を念頭に置くために、調査対象国は、中東湾岸地域（アラブ首長国連邦）および東南アジア（マレーシア、シンガポール、インドネシア）とする。また、分析に必要な英語、アラビア語、トルコ語、マレー語、インドネシア語の資料を現地（アラブ首長国連邦、ヨルダン、エジプト、トルコ、マレーシア、シンガポール、インドネシア）の図書館・書店、欧米の図書館（米議会図書館、大英図書館など）で収集する。

これらの現地調査と資料収集の成果を踏まえて、イスラーム経済システムの現代的再興についての理論的検討を行う。調査手法は、現地での聞き取り調査および資料調査を基本とし、必要に応じて関連する国際会議にも出席する。また、研究の国際発信に努めるために、国際会議・国際ワークショップでの発表や、国際専門誌への投稿を積極的に行う。

### 4. 研究成果

以下では、各年度ごとの研究成果をまとめた上で、研究課題全体の成果を述べることにする。

#### (1)平成 25 年度

##### 資料収集

2014年2月には、イギリスとマレーシアにおいて、マレー語、インドネシア語、英語による関連文献の調査・収集を実施した。また、2013年9月には、アラブ首長国連邦、ヨルダン、エジプト、トルコにおいて、本研究課題に関するアラビア語、トルコ語による関連文献および資料の収集を行った。

##### フィールドワーク

2014年2月から3月にかけて、マレーシアとシンガポールでフィールドワークを実施した。マレーシアでは、首都クアラルンプールとスランゴール州を管轄するそれぞれのザカート・ファンドを訪問し、当地でのザカートの再活性化に資する先駆的な取り組みについて調査を実施した。シンガポールでは、同国のザカートやワクフを一元的に管轄するムスリム評議会および100近くの管理ワクフ物件をそれぞれ訪問し、当地でのザカート・ワクフの再活性化に資する取り組みについての調査を実施した。また、2013年9月に

は、別資金で渡航したアラブ首長国連邦の国営ザカート・ファンドにおいて、同様の調査を実施した。これらの調査からは、ザカートの再活性化においては、マレーシアよりもアラブ首長国連邦の方が、様々なアクターとのネットワークを重視したより先駆的な取り組みが行われていることが判明した。他方、ワクフの再活性化については、最も先駆的と呼ばれているシンガポールの取り組みの実態をより詳細に解明することに成功した。

##### 国際会議での研究発表

2013年9月にトルコ・イスタンブルで開催された第9回イスラーム経済学国際会議において、本研究課題の構想に関する研究発表を行った。

#### (2)平成 26 年度

##### 資料収集

2014年9月に、アメリカ合衆国の米議会図書館、シカゴ大学にて、英語、アラビア語による関連文献の調査・収集を実施した。また、2015年2月から3月にかけて、マレーシアとインドネシアで、本研究課題に関する英語、マレー語、インドネシア語関連文献および資料の収集を行った。

##### フィールドワーク

2015年2月から3月にかけて、インドネシア、シンガポールでフィールドワークを実施した。インドネシアでは、首都ジャカルタ、およびジャワ島東部主要都市マランにおいて、政府系、民間NGO系、草の根系の様々なザカート機関を訪問し、当地でのザカートの再活性化に資する先駆的な取り組みについて調査を実施した。そこでは、多様なアクターが多様な志向性を持ってザカート実践の再活性化に取り組んでいることが観察され、昨年度同様の調査を行ったマレーシアと比べて、インドネシアでは、ザカートの多様な現代的実践が行われていることが明らかになった。シンガポールでは、昨年度に行ったワクフの再活性化に関する現地調査の

アップデート、フォローアップを行った。再活性化のために物件を改築しているワクフについては、その進捗状況を確認でき、また、新たに再活性化に取り組んでいるワクフがあることも判明し、その動態を詳細に調査した。

##### 国際会議での研究発表

2014年5月に京都大学で開催された第5回イスラーム・文明・科学国際シンポジウムにて、昨年度実施したシンガポールのワクフ再活性化に関する研究発表を、2014年8月にトルコ、中東工科大学で開催された第4回世界中東学会にて、同じく昨年度実施したマレーシアのザカート再活性化に関する研究発表を行った。

#### (3)平成 27 年度

##### 資料収集

2015年8~9月に、アメリカ合衆国の米議会図書館、シカゴ大学にて、本研究課題に関するアラビア語関連文献および資料の収集

を行った。

#### 国際会議での研究発表

2015年8月に京都大学で開催された第9回イスラーム経済ワークショップ、および2015年9月に上智大学で開催された第5回NIHUプログラム・イスラーム地域研究国際会議、2015年9月にマレーシア国民大学で開催された第6回イスラーム・文明・科学国際シンポジウムにて本研究課題に関する研究発表を行った。

#### (4)研究課題全体の成果と課題

##### 成果

イスラーム金融を用いた伝統的イスラーム経済制度の再活性化の実態に迫る本研究によって、様々なイスラーム経済セクター（金融、ザカート、ワクフ）が、現代に再び「システム」としての有機的つながりを取り戻すダイナミズムを捉えることに成功した。これを「organic integration of the Islamic economic system in the modern world」と表現した [Nagaoka 2014]。

そして、その構造は、イスラーム帝国という領域的実体に支えられていた近代以前のイスラーム経済システムとは異なるものとして立ち現れていることが明らかとなった。つまり、現代のイスラーム経済システムは、サイバーネットワークのような現代テクノロジーを駆使して、国家の境界を越えた脱領域的なシステムとして立ち現れているのである。このことを、「meta-geographical nature of the emerging system」と表現した [Nagaoka 2014]。

また、このような現代のイスラーム経済システムは、国家や大企業が関与する現在のグローバル資本主義と異なり、中小企業や草の根運動、一般庶民が広く参画し、貧困や経済格差といったグローバル資本主義の弊害を是正する大きな役割を果たしていることも明らかになった。このことは、イスラーム経済システムが、1つのオルタナティブな経済システムとして機能しうることを、未来への可能性も含めて示唆するものだと考える。

従来の現代イスラーム経済研究は、国内外問わず、イスラーム金融の実践の圧倒的なプレゼンスの下で、そのほとんどがイスラーム金融を対象としたものであった。金融以外のイスラーム経済セクターの現代的位相を解明する本研究によって、イスラーム金融研究だけにとどまらないより総合的な観点からの「現代イスラーム経済論」という新しい研究領域を開拓した。

##### 課題

研究期間全体を通して、伝統的なイスラーム経済制度の再活性化の取り組みに着目し、イスラーム金融がどのようにコミュニティの福祉や社会生活の改善に寄与しようとしているのかを実証的に考察したが、現地調査や資料解析を通して次第に判明してきたのは、イスラーム金融が自らの社会的役割を重視し、新たな事業に取り組んでいる以上に、

その事業対象となっている他のイスラーム経済アクターが、より主体的に社会に根ざした新たなイスラーム経済システムの形成に寄与しうる萌芽的な実践を始めているということであった。このような実践は、イスラーム金融を頂点に戴く従来からのイスラーム経済システムの構造の転換を迫る画期的な取り組みであり、今後の研究では、これらの萌芽的な実践の実態をより深く調査することで、金融資本主義化を克服し、グローバル資本主義の本格的オルタナティブとしてのイスラーム経済システムの可能性を考える必要があると思われる。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計5件)

Shinsuke NAGAOKA "Resuscitation of the Antique Economic System or Novel Sustainable System? Revitalization of the Traditional Islamic Economic Institutions (Waqf and Zakat) in the Postmodern Era." *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 7, pp. 3-19, 2014.

Shinsuke NAGAOKA "Islamic Finance and Revitalization of the Traditional Islamic Economic Institutions." *MEI Insight* No. 122, 6 April, 2015.

長岡慎介「現代中東アラブ世界の「読み」「書く」伝統とその革新 研究者が見た出版メディアのいま」『情報の科学と技術』66(1)、26-31頁、2016年。

Shinsuke NAGAOKA "Revitalization of Waqf in Singapore: Regional Path Dependency of the New Horizonst." *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies* 8, pp. 4-18, 2016.

長岡慎介「イスラーム金融は何に対峙しようとしているのか 伝統・近代・ポスト資本主義」『成城大学経済研究所年報』29、45-78頁、2016年。

〔学会発表〕(計12件)

Shinsuke NAGAOKA "Revitalization of the Traditional Islamic Economic Institutions (Waqf and Zakat) in the Twenty-First Century: Resuscitation of the Antique Economic System or Novel Sustainable System?" Presented at the 9th International Conference in Islamic Economics and Finance, Growth, Equity and Stability: An Islamic Perspective、口頭発表(英語)、2013年9月10日、於：トルコ、WoW Convention Center (イスタンブール)。

Shinsuke NAGAOKA "Revivals of the Traditional Islamic Economic Institutions with Novel Devices in the Second Decade of the 21st Century." Presented at the 7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance

New Horizons in Islamic Economics, Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential in the Post-Capitalist Era、口頭発表(英語) 2013年10月1日、於:京都大学。

長岡慎介「イスラーム金融の新展開 そのビジョンとグローバル経済へのインパクト」アジア法学会秋季研究大会創立10周年特別企画「シャリーアとイスラーム金融」、口頭発表、2013年11月16日、於:立命館大学朱雀キャンパス。

Shinsuke NAGAOKA "Creating a Sustainable Economic System: Lessons from Islamic Economics and Finance." Presented at the 2nd UBD-KU Joint International Seminar: New Horizons in Islamic Studies: Asian Perspectives、口頭発表(英語) 2013年11月25日、於:スルターン・オマル・アリー・サイフディーン・イスラーム研究センター(SOASCIS)、ブルネイ・ダールツサラーム大学。

長岡慎介「中東湾岸系イスラーム金融のグローバル化・再考 構造変動後の新潮流とその意義」文部科学省共同利用・共同研究拠点共同研究課題「中東政治・経済の構造変動とイスラーム・アラブの役割」2014年度第1回研究会、口頭発表、2014年5月17日、於:早稲田大学。

Shinsuke NAGAOKA "Waqf and Reinventing the Islamic Economic System in the Modern World: Pioneering Practice in Singapore." Presented at the 5th International Symposium on Islam, Civilization & Science、口頭発表(英語) 2014年5月31日、於:京都大学。

Shinsuke NAGAOKA "Beyond the Financialization of Islamic Economics: A New Attempt of Islamic Banks to Collaborate with Traditional Economic Institutions (Zakat and Waqf)." Presented at the 4th World Congress of Middle Eastern Studies (WOCMES)、口頭発表(英語) 2014年8月20日、於:トルコ、中東工科大学。

Shinsuke NAGAOKA "New Intellectual Discussion in Islamic Economics after the Sharia-Compliant Criticism: Beyond the Dichotomy between Aspiration and Reality." Presented at the 8th Durham-Kyoto International Workshop in Islamic Economics and Finance、口頭発表(英語) 2014年8月26日、於:英国、ダラム大学。

長岡慎介「相互扶助ファンドとイスラーム金融が創る新しい価値 ポスト資本主義をめざすコミュニティ経済哲学」公益財団法人トヨタ財団研究助成プログラム・助成対象者ワークショップ「社会の新たな価値創出をめざして」、口頭発表、2015年4月11日、於:東京大学。

Shinsuke NAGAOKA "Reconsidering the Role

of Traditional Islamic Economic Institutions for Community Welfare: New Paradigm or Mimic Capitalist Model?." Presented at the 9th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance New Horizons in Islamic Economics、口頭発表(英語) 2015年8月5日、於:京都大学。

Shinsuke NAGAOKA "The Relationship between Islamic Finance and Traditional Economic Institutions in Singapore: Revitalization of Waqf and its Potential to Transcend the Financialization of Islamic Economics." Presented at the NIHU Program for Islamic Area Studies Fifth International Conference, Tokyo、口頭発表(英語) 2015年9月12日、於:上智大学。  
Shinsuke NAGAOKA "Is 'Interest-riba Consensus' a Robust Platform for Islamic Economics?"

New Intellectual Discourse after the Sharia-Compliant Criticism." Presented at the 6th International Symposium on Islam, Civilization & Science、口頭発表(英語) 2015年9月29日、於:マレーシア国民大学。

〔図書〕(計4件)

長岡慎介「現代世界におけるイスラーム経済の再興 その知的伝統とダイナミズム」イスラームビジネス法研究会/西村あさひ法律事務所編『イスラーム圏ビジネスの法と実務』一般財団法人経済産業調査会、109-119頁、2014年。

長岡慎介「現代イスラーム経済論の新潮流 そのビジョンと挑戦」イスラームビジネス法研究会/西村あさひ法律事務所編『イスラーム圏ビジネスの法と実務』一般財団法人経済産業調査会、121-130頁、2014年。

Shinsuke NAGAOKA "Islamic Finance and Global Economic History: Beyond the Western Paradigm." In Zamir Iqbal and Zurina Shafii eds. *State of Islamic Finance: A Retrospective Assessment and Looking Forward*. Bandar Baru Nilai: Universiti Sains Islam Malaysia, pp. 111-136, 2015.

長岡慎介「資本主義の未来 イスラーム金融からの問いかけ」村上勇介・帯谷知可編『融解と再創造の世界秩序』青弓社(関連地域研究2) 187-207頁、2016年。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

長岡慎介(NAGAOKA, Shinsuke)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号: 20611198

以上。